



コミュニティだより



発行 登米市吉田公民館

TEL: 0220-55-2124

(指定管理者 吉田コミュニティ運営協議会) FAX: 0220-55-4528

吉田コミュニティ運営協議会



コミュニティだよりの発行について

これまで吉田コミュニティ運営協議会では、毎月「公民館だより」と「支援員だより」を各々発行して毎戸配布してまいりましたが、今月から「コミュニティだより」として一本化して発行することにしました。公民館からのお知らせだけでなく、地域のコミュニティの話題なども取り上げてまいりますので情報提供をお願いいたします。

古館神社の神額の奉納

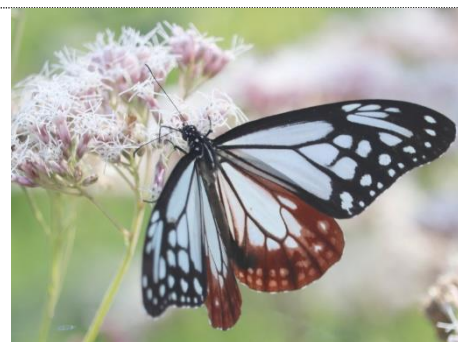
地域コミュニティの古い形が残されているのが、庚申講や山の神講、観音講などの講組織ですが、今回は今泉と貝待井の氏子で組織する古館神社の「古館講」の話題をお届けします。

古館神社は中世（鎌倉・室町時代）の館跡である今泉館跡の上に建つ神社ですが、征夷大將軍坂上田村麻呂の創建とも伝えられています。この古館神社の神額は昭和16年のもので、80年以上も経って劣化が著しかったことや今年3月の地震で神額が落下してしまったことを受けて、古館講総代長の佐々木義衛さん（貝待井）が新たに製作、寄贈する運びとなり、けやき材を使い、すべて手作りで約2カ月かけて完成されました。額面の周りに唐草模様の飾りを入れ、文字は手彫りの彫り込み彫刻を施し、金メッキ塗料で仕上げられています。揮毫は今泉の山内英喜さんの書です。去る9月18日に奉納架替式が行われました。総代長が職人の技を生かし、心を込めて丁寧に仕上げた神額です。ぜひお参りの上、ご覧になってみてはどうでしょうか。



平筒沼にアサギマダラが飛来

旅するチョウと言われるアサギマダラが9月29日に平等沼のフジバカマの花に飛来し、優雅な姿を披露しました。フジバカマの蜜はアサギマダラの大好物。愛好者のグループが昨年の秋にフジバカマを平筒沼の遊歩道近くに移植してからちょうど1年、たった1頭（蝶々は頭と数えます。）でしたがよく来てくれました。無事に目的地（台湾？）まで飛んで行ってほしいものです。愛好者グループはフジバカマの花畑をもっと広げて、アサギマダラの飛来数を増やしたいと意気込んでいました。（愛好者グループ代表・撮影：高橋 由紀子さん）



吉田地域づくり活動奨励金交付事業

今年度から行政区を対象に、吉田地域づくり活動奨励金交付事業を始めました。この事業は、登米市ががんばる地域づくり応援交付金を活用し、地域づくり事業（敬老会、環境整備活動、子供会、防災訓練等）に交付金（上限2万円）を支給するものです。

これまでに鈴根、江浪、今泉、永沢、森腰、中新田、朝来の7行政区が、この事業を活用して、環境整備活動、敬老会、防災訓練を行いました。行政区での積極的な活用をお願いします。

裏面もご覧ください ➡

今年の平筒沼クリーンアップ作戦は、新型コロナ感染症対策の為、吉田地区の行政区長さん方と一部の有志の方々をお願いして開催しました。当日は豊里コミュニティ推進協議会の方々と合わせて43名の参加。平筒沼周辺の駐車場と遊歩道を中心に、可燃ゴミと不燃ゴミを分別しながらゴミ拾いを行いました。今回のクリーンアップ作戦では、可燃ゴミ16kg、不燃ゴミ4kgを回収しました。参加者からは「おらほの宝の平筒沼が残念」と感想もありました。



不法投棄は犯罪です。警察に通報し厳しく対処します。
これから紅葉の時期を迎え、県内外から多くの方が来町します。平筒沼周辺の道路や駐車場も綺麗にしていきたいと思います。

女性サークル 開催

9月8日と27日に昨年好評だった一閑張りを、今年は持ち運びに便利な小さ目の竹籠を使って作りました。2度目ということで、手際よく出来るかと思っていたら、小さい為の苦労もあったようですが、出来上がりに満足だったようです。



健康スポーツ教室

9月21日と29日 約2か月お休みしていた健康スポーツ教室を開催しました。久しぶりに会う学級生の皆さんは元気な挨拶から始まって、薄井先生の指導のもと楽しく心と体をリフレッシュしたようです。



館長の戯言（ざれごと）No. 12 「わらし・やろっこ」

（参考図書：方言に生きる古語）

わが公民館職員のKさんが10月12日めでたく赤ちゃん（男の子）を出産しました。お陰様で母子ともに健全です。おめでとうございます。「わらすこ生まれて良かったごだね。やろっこだつてねー。」などと聞こえてきそうな感じがしますが、今回はその「わらし」と「やろっこ」を取り上げます。

「わらし」は子どものことで古語では「わらわ」、複数形が「わらわべ」これが縮まって「わらべ（童）」、同様に複数形の「わらわ衆」が変化して「わらし」になり、単数でも「わらべ」や「わらし」というようになったとのことです。

「やろっこ」は元々一人前の大人の男を意味する野郎（ヤロー）に、お茶っことかお菓子っこだのと同様に「コ」をつけて「野郎っこ」になったとのことで、若い男の子を意味するように変わっています。